

16 耳鼻いんこう科フェロー研修要綱

指導責任者 江崎 友子

常勤医師3名の体制で診療に当たる耳鼻いんこう科の得意分野は「難聴」と「言語」です。愛知県内で発生する、特に高度難聴児の殆どは当センターへ紹介され、検査から診断、治療また手術へと一貫した態勢がとられています。聾学校や通園施設等の教育機関とも連携した訓練を行ない、難聴児のQOL向上に貢献しています。

「きこえと言葉の外来」では、難聴児の聴力評価を行います。経験豊富なST(言語聴覚士)によるBOA、COR、Peep show test、また tympanometry、DPOAE スクリーナや ABR はもちろん、ASSR(聴性定常反応)といった機器により0歳児から対応可能な態勢が整えられており、難聴の程度に応じて補聴器または人工内耳による補聴の要否を診断していく過程が経験できます。方針の決定した難聴児には、教育機関と連携しながらの聴覚学習を進め、聞こえのみならず言語力の向上を目指し、愛知県の聴覚障害児のキーステーションとして機能しています。話し言葉に問題がある場合の診断や訓練も行っています。また、耳の疾患は、滲出性中耳炎・慢性中耳炎・真珠腫から耳小骨連鎖異常や耳硬化症等の疾患の診断から手術に至るまで対応可能となっています。

一方、「一般外来」では、難聴疑いを含めた初診の窓口であるとともに、主に他の医療機関では難渋するダウン症児や発達障害児を始めとする治療抵抗児、合併症の為に他科との密接な連携を必要とする小児の診断・治療・手術を行っています。なお、受診の年齢層が低いこともあり鼻の疾患は少ない状態です。

2022年度の手術実績として

1. 咽頭手術(扁桃腺摘出・アデノイド切除)51件、
2. 鼓膜換気チューブ留置術 75件、
3. 人工内耳埋め込み術 8件、
4. 鼓室形成手術 5件、
5. その他 31件。

外来での代表として、鼓膜換気チューブ留置術などがあります。

鼓膜換気チューブ留置は入院・外来で多数行われています。扁桃腺・アデノイド肥大は滲出性中耳炎や睡眠時無呼吸症候群の悪化因子にもなり頻度の高い手術です。

フェローの1年目は、問診・所見のとり方・各種聴力検査・ABR・ASSR・鼻咽喉頭ファイバーと、鼓膜切開・アデノイド切除・扁桃摘出術を中心に、2年目は幼児聴力・言語発達・構音検査と鼓室形成・乳突洞削開・人工内耳植え込み術等を経験していきます。

咽頭手術・チュービングで腕を磨きながら、耳科、小児難聴の一貫した治療を経験したい耳鼻科医に適した場所です。